

第五節 比率問題ニ關スル松平「ドーズ」兩大使間一般的會談

七月四日松平大使「ドーズ」大使ノ希望ニ依リ會見シタル處「ドーズ」大使ハ國務長官ヨリ來翰ニ接シタリトテ六月二十四日附書翰寫ヲ内示シタルカ右ニ依レハ六月十一日「スチムスン」長官出淵大使會談（第二章第一節第二項末段參照）ノ要領ヲ記載シ終リニ出淵大使ハ日本ハ支那ノ事情ニ顧ミ同地方ニ小型ノ軍艦ヲ要スルニ付五—五—三ノ比率ヲ巡洋艦以下ノ軍艦ニ適用スル事ニハ日本ハ満足セサルヘキ旨ヲ述ヘタルニ付長官ハ先ツ大體口徑、速力、艦齡等ヲ考慮シテ各國軍艦ノ價值ヲ比較シタル上本問題ヲ議スル事然ルヘシト述ヘ置キタリト記載シアリタリ「ドーズ」大使ハ特ニ此ノ點ニ付松平大使ノ注意ヲ喚起スル様子ナリシニ付松平大使ハ「支那地方ニ於テ僅ノ米國民ヲ保護スル爲ニ相當多數ノ軍艦ヲ米國政府ニ於テ派遣シタル事實ニモ顧ミ上海ノミニテモ二萬人ヲ有シ全數ニ於テ二十萬ノ居留民ヲ有スル日本トシテハ一旦動亂ノ生シタル場合多數ノ軍艦ヲ要スル事勿論ナルカ尙其ノ外五—五—三ニ反對ナル理由ハ他ニモアリ」トテ島國トシテノ日本ノ立場等一般的説明ヲ爲シ「尙何レノ場合ニ於テモ日本ハ國防ヲ本意トシ決シテ攻撃ノ基礎ニ於テ比率變更ノ根據ヲ求ムルモノニ非ス如何ナル比率ノ變更ヲ希望スルヤハ他日ノ問題トシ五—五—三ヲ主力艦以外ニ適用スル事ハ日本ノ輿論ニ顧ミルモ承諾シ得ラレサルヘキニ付此ノ點ハ豫メ御含ミヲ請フ」旨述ヘタル處「ドーズ」大使ハ國務長官ノ書翰ニ依リ「コムミット」スル事ヲ避クル様子ナリシカ「兎ニ角輿論ヲ無視スル事ハ何レノ國ニ於テモ困難ナルニ付是等ハ何レ慮心坦懷話合フニ於テハ調整 (adjust) スル事可能ナルヘシ」ト述ヘタリ

尙「ドーズ」大使ハ一ノ覺書様ノモノヲ内示シ「初メテ「ギブスン」ト共ニ首相ニ面會シタル時首相ノ述ヘタル事ニ對シ「ギブスン」ヨリ此ノ覺書ヲ作り來リタルニ付自分ハ次回首相ニ面會ノ際此ノ意味ヲ述フル積リナリ」ト云ヘルカ其ノ内容ハ英國側ニテハ千九百二十九年度計畫ハ放棄スル事ヲ得ルモ千九百二十八年度計畫ニ對シテハ既ニ契約ヲ締結シタルニ付

之カ廢棄ニ多大ノ賠償ヲ要スルノミナラス之ヲ放棄スルニ於テハ二千人ノ失業者ヲ出スヘキニ付之ヲ放棄スル事能ハサル事ヲ述ヘタルカ右ノ如クセハ縮少ニアラスシテ制限トナリ米國側ニ於テハ結局「バリテイ」ニ達スル迄造船艦ヲ爲ササルヘカラサルニ至ルトノ趣意記載シアリタリ

第六節 關係國代表者間非公式相談會議題案ニ對スル帝國政府訓令(附、軍縮全般ニ互ル專門的對策ニ關スル海軍訓令)

帝國政府ハ本章第三節ニ記載セル相談會開催ノ件及右相談會ニ於ケル米國側選定ノ議題案ニ對シ慎重ナル考慮ヲ加ヘルタ上七月十九日松平大使宛左ノ通訓令セリ

「一、倫敦ニ於テ海軍軍縮ノ一般方針ニ關シ五國代表者ノ相談會ヲ開クコトハ異存ナシ貴電（第二章第八節第一項（參照）ニ依レハ英米兩國先ツ話合ヲ付ケタル後他ノ關係國ニ協議セムトスル模様ナル處英米ノ話合ヲ阻碍スルカ如キ態度ニ出ツルコトヲ避クヘキハ勿論ノ儀ナルカ本問題ノ重大ナル性質ニ鑑ミ當初ヨリ極メテ率直好意的ナル「ドーズ」大使トハ特ニ緊密ナル關係ヲ持續シ又「マクドナルド」首相及英當局トモ充分聯絡ヲ計リ適當ノ機會ニ於テ我主張ヲ開陳貫徹スルノ素地ヲ作り置カルル様可然御措置アリ度シ

二、米國政府選定ノ議題案四項目ヲ以テ相談會協議ノ範圍トスルコトニ付テハ異存ナシ議題案各項目ニ對スル我方ノ所見左ノ如シ

（第一項）

海軍力比較法ハ最モ簡明ナルコトヲ要スヘシ我方專門家ノ研究ニ依ルモ從來通り排水量ニ依ルヲ以テ簡明且最モ良ク綜合勢力ヲ表ハスモノト認メサルヲ得ス尤モ艦齡ニ對シ適當ナル勢力遞減率ヲ發見スルヲ得ハ之ヲ排水量ニ加味スルコトニ依リ一層合理的ニ勢力ヲ比較シ得ヘキヲ以テ該遞減率研究ヲ各國專門家ニ附託スルコト有益ナルハシ艦齡以外ニ砲力